会報 No.339

キャリア・コンサルタント

2024 年（令和 6 年）9 月号

［発行］キャリア・コンサルタント協同組合
発行責任者：福田　秀樹
〒102-0052 東京都千代田区神田小川町 1-8-3
小川町北ビル 8F
TEL：03-3256-4167（代表）
直通電話：ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ事業部　03-6826-5875
：外国人材受入事業部 03-6826-7789
FAX：03-3256-4168
E-mail:［事務局］ jimukyoku@ccco.jp
［ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ部］ eigyo@ccco.jp
URL:https://ccco.tokyo

編集長：山本　奈美
編集者：大野　長壽　・　中野 忠
バックナンバー：
https://ccco.tokyo/kaihoh

1. 組合加入から代表理事 10 年を振り返って

理事　渡邊　健三

2. １０３歳の母を送って

組合員　宮坂　武彦

3. 大河ドラマでの兄弟

組合員　中野　忠

4. 事務局だより

事 務 局

一粒万倍

1．組合加入から代表理事 10 年を振り返って

理事　渡邊健三

今年も異常高温が続き、熱中症警戒警報が相次ぐ状況が続きました。この 20 年間でこれほどの暑さが続いたのは初めてのように感じます。そして地震、台風、集中豪雨、鉄道、航空への影響、米騒動がありました。巨大地震は必ず来ると言って準備を勧める情報が多くみられるようになりました。これから先、日本列島はどうなってしまうのかと不安となる事象が相次いでいます。最近では、コメがない、高騰している状況がみられます。食料安保が最も重要なことだと思いますが、これも自助でしょうか。

私は会社員生活 30 年間を旅行業に携わってきましたが、何か別の仕事をやりたいと考え、1999 年 12 月に会社を早期退職しました。その後、ぶらぶらしていた時期は 3 年弱ありますが、骨休めと称して行きたいところに行って、やりたいことをやって、中国北京の北京語言文化大学で 2000 年 4 月から 1 か月半、北京で中国語、というより社会勉強をして過ごしました。当時、欧米人が結構勉強に来ているのが印象的でした。そのころ環状線の地下鉄が部分開業で一周全部はつながっていなかった時代でした。まだまだ交通の主力はバスですが、言葉が不自由でしたから乗りたいバスを探すのが大変だったことを覚えています。それでも市内、大同、承徳など、あちこち行って楽しい北京生活でした。物価は安かったです。帰国してのち、さて何をしようかと思い悩んでいた中で、たまたま CCK と関わりを持ち、今年で 22 年になります。その間いろいろなことが起こりましたが、22 年間を振り返り、私の昔話としてお読みいただければ幸いです。

私が CCK（CCA）に入会したのは 2002 年です。54 歳の時のことです。当時は千葉県柏市柏の葉に千葉県のインキュベーター施設、東葛テクノプラザ内に CCK 東葛サテライトオフィスがあり、当時活動していたのが河井さんやその他いろいろ個性的な人が多くいました。面白そうだなと思い、私もそこで入会して様々な活動をしました。私が関わった案件では、広瀬さんを中心に野田商工会議所とタイアップして ISO14001 の内部監査員養成講座、ビジネス英語講座、エコ検定合格講座、千葉県からの調査受託業務など、当時廣瀬さん、河井さん、並木さん、堀田さん、下田さん、その他の方たちと行動しました。多くはありませんが、それなりに稼げていた時だったと思います。それ以外に、自分のコネ、経験を生かして、名古屋、神奈川の大学で非常勤講師として、旅行業の成り立ちや旅行取扱主任者受験対策講座として民間の取

扱主任者受験講座講師などを経験しました。本部でも ISO の仕事やその他をわいわいがやがや集まっては議論やら仕事の準備をやっていました。あまり稼ぐことはできなかったけれども楽しくやっていた時期であったと思います。こうしたやり方でその場しのぎで何とか組合財政が保っていた時期でもあったと思いますが、現実は大変な財政状況の時代でした。自分を含めて、何か安定収入を確保して、安定的な組合運営を目指したい、そのためにはどういう仕事があるか、できるか、模索していた時期でもあったと思います。当時、若年労働者の減少、人手不足が言われ始めた頃でもありました。そのころ、研修生事業をやってみるのがいいのではと H 氏の指摘があり、挑戦してみようと考え、H 氏、S 氏らと事業部設立の提案を理事会に諮ったが、これがコンサル事業とは全く性格が異なる、問題の多い制度だということで、なかなか賛同が得られず苦労しました。その当時は今とは比較にならないほどの組合財政であり、安定的な組合運営の一助になると説明しつつもしばらく宙に浮いた状況でありました。そうこうしている中で、新規事業は必要であり、取り組んでみる価値はあるとの考え方が理事の間で広がり、賛成多数で実習生事業に取り組むことが承認されました。

事業部のメンバーはＳ氏、H 氏の子息、私でスタートしました。定款変更の認可が苦労しながらもようやくおり、事業部は発足しましたが、ことはそう簡単には進まず、まず営業力がないことが受入企業開拓につながらなかった時期が続きました、その中で、ようやく１件、家具製造会社と話がまとまり、実習生の人選を終え、申請手続きを開始しましたが、当時は今でいう JITCO が一手に窓口となって申請受付を行っていたのですが、これが非常に官僚的、上から目線、やってあげるという組織で、わからないことの相談受付も何もない状況でスタートしました。それでもなんだかんだで、ようやく在留許可認定証が下りましたが、時間がかかりすぎるということで企業からすでに取消の連絡を受けていたため、キャンセルをせざるを得ませんでした。こうして第１回目の研修生は実現しなかった経緯があります。
その後、栃木の M 氏、Y 氏からベトナム人研修生について業務提携の話があったり、中国の送り出し機関から中国人研修生について提携の提案があったりして、具体的に受入が前進することとなりました。申請手続きで苦労しながら、2004 年に初めてベトナム人研修生を受け入れ開始となりました。その後は M 氏との提携は失踪が多く発生する問題はありながらも、研修生の受入は増えていきました。しかし、業務に全く無関心な S 氏のもうかればよいという考え方に対して、私は手間はかかるか知識を組合に集積しておくことが重要であり、それが事業部・組合の発展につながるという考え方とぶつかることとなった。私は独自で自分の道を作ってみようと考え、中国人実習生の受入れを開始し、順調に動き出したころ、栃木の Y 氏から佐藤常務理事（現）を紹介され、ちょっとくせはありますが、大きな問題はないと考え、協業していくこととしました。それから関西中心にベトナム人実習生の受入れが徐々に拡大し、2014 年凸版印刷㈱の事業会社である凸版情報加工㈱滝野事業所で第 1 号の実習生受入が決定したことにより、凸版印刷㈱の他の事業所に

も波及したため、凸版印刷㈱関連で働く実習生数が大幅に増加し、全体で従来は40～50名程度で推移していたものが100名を超える人数となった。これはひとえに佐藤常務理事の努力に負うところが大であり、私が代表理事になった年を境に実習数が飛躍的に増加し、組合財政にも大きな貢献ができたものと考えています。

思い起こせば、今から10年前の2014年（平成26年）私が当時の代表理事栩木さんの後任として、代表理事に推されて就任したのが2014年5月で、今年5月までで5期10年間務めさせていただきました。代表理事就任の翌年2015年はCCK20周年記念イベントとして、2月19日(木)、中央大学駿河台記念館にて、多くの来賓を迎えて講演会を開催しました。そしてわかっていたこととはいえ、累積赤字を抱えてのスタートで、参ったなと思いつつ、何とか3年で解消しようと私なりに頑張ったことを思い出しました。その後皆さまのご協力もあり2017年決算で累積赤字を解消しました。そして昨年10月6日に一ツ橋喜山倶楽部にてCCK30周年記念式典を開催しました。めぐり合わせというか、10年間のうち2回も記念行事を開催しました。代表理事として十分職責を果たせたか、自信はありませんが、皆様のご支援、ご協力に感謝しております。

今後は、再生！実習生事業、特定技能を推進してまいります。私自身がかかわっている外国人材受入事業においては、凸版印刷㈱が実習生受入を全社規模での停止決定を受け、来年でゼロとなるため、その代替えが不可欠です。岐阜事務所、京都駐在事務所、本部一丸となって、外材事業拡大に向けて今後の戦略を立て、新規・リピート需要を確保しながら、一般職種はもとより、新たに介護分野の実習生、特定技能の受入れを開始していきたいと考えています。介護業界においては経営改善も喫緊の問題であると認識しています。そこをCCKとして今まで培ってきたコンサル能力をフルに発揮し、外国人材紹介分野においても介護業界とウインウインの関係を構築できるのではないかと考えています。私たちの強みと介護業界のニーズを組み合わせた戦略が求められていると思っています。

キーワードは「気づき」、「行動」、そして次世代につなげたいと考えています。

以上

2．１０３歳の母を送って

宮坂武彦

先ずは、「１０３歳まで生きてこられてよかったね。おめでとう！」と言ってやりたい。「女は男に仕える者」という時代背景の中で生をうけ、朝早く起きて冷たい水でコメを研ぎ、竈に火をおこしご飯を炊き、盥で洗濯をし、夜遅くまで衣類のほころびを繕うような生活が当り前の時代から現在までの１００年間生きながらえたことは、誠に脅威のことと思う。

安らかにお眠りください。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏！

６月に高校の同窓会（喜寿の祝いの会）があり、帯広に帰った際に面会した（それまでコロナ感染回避のため面会謝絶）が、ボケが進みずっと目を開けられず居眠りをしながらの面談であった。大きな声でゆっくりと母の名前を呼びかけ母の子供のある旨を伝えると、「あんた、どこに行ってたのさ！」との言葉が返ってきた。本当にわかっていたのかどうかは定かではないが、これが最後の言葉となった。この状態を目にした時に、「後せいぜい半年しか持たないな！」と思ったが、面会から２か月で義理の兄と施設の方に看取られての他界となった。

葬儀は、父の葬儀社とは異なる綺麗な葬祭場で執り行うこととなり、通夜と通夜振る舞い、葬祭場での雑魚寝、そして翌日の告別式、火葬とお骨拾いという型通りの工程であった。その間、鐘を打ちながらの死装束への着替えを始めて目にしたが、若い女性が施設で着ていたパジャマを脱がせて手際よく着替えさせ、施設で化粧をしていただいていたがそれを落として再度綺麗に化粧を施し、最後に棺桶に収納して約１時間をかけて行った。その女性に「お見事です。でも死体を取り扱うのに抵抗はありませんでしたか？」声をかけると、「最初は抵抗がありましたが、すぐに慣れました。」とのことであった。

葬儀の間、母の兄弟の子供たち（私のいとこ）や姉の子供たち（私の甥・姪）が多くに参列していただき、ワイワイガヤガヤ賑やかに送りだせました。また、一周忌には、「最後のいとこ会」の開催を宣言して終わったが、いとこからは、「絶対に、いとこ会をやってね！」と声がかかった。いとこ会は、過去二回ほど開催しているが、新型コロナの影響により中断していた。幼い頃の私達いとこは、夏休みや冬休みなどに母の実家や姉の家に頻繁に集まり、大広間で雑魚寝をするなど一般よりは濃密なつき合いだったようで、懐かしく思い出される。一周忌の法要を機に、盛大ないとこ会を開催したいと思う。

以上

3. 大河ドラマでの兄弟

組合員　中野　忠

毎週日曜夜8時からNHKで放送されている大河ドラマ。毎年一人の歴史上の人物を主人公にしたドラマで、昭和38年に始まったドラマですが、私はこの第1回目を見ているのです。「花の生涯」で主人公は幕末安政の大獄で不満藩士に桜田門外で暗殺された井伊直弼大老（主演：尾上松緑）でした。以後殆どの大河ドラマを見ています。時代の多くは戦国か幕末でたまに源平合戦の頃を取り上げています。しかし、今年は平安時代中期、源氏物語を執筆した紫式部が主人公（主演：吉高由里子）で一応見ていますが、時代背景がよくわからず、あまり面白くは見れていません。さらに来年は江戸時代後期の浮世絵師が主人公の「べらぼう」で浮世絵師（蔦屋重三郎）も主演（横浜流星）も全く知らない人物で、あまり興味がわきません。

再来年は「豊臣兄弟」で主人公は秀吉ではなく弟の秀長なのも面白いと思います。主演はこの9月末まで放送されている朝ドラ「虎に翼」で主人公の夫役を演じた仲野太賀が起用されました。

主人公の豊臣秀長は秀吉に比べ、あまり知られていませんが、この兄弟大変仲がよく秀吉の天下取りを支えた人物でもあるのです。弟でありながら秀吉より先に亡くなっており、もし秀吉より長生きであったら、徳川家康が関ヶ原の戦いで勝利し、天下をとることができなかったと思われるほどです。

兄弟だから仲がいいのは当たり前と思われるかも知れませんが、実は歴史上仲が悪い兄弟の方が多く大河ドラマでも数多くとりあげられていて、すべてが兄が弟を殺めた例です。

一番古い時代の例は源頼朝・義経兄弟で一昨年の「鎌倉殿の十三人」でもとりあげられています（主人公、北条政子の弟北条義時、主演：小栗旬）。この件の背景は結構有名なのでご存じの方も多いと思いますが、この兄弟仲が悪かったかどうかわかりません。年が12才も離れている上、育った環境も全く違うのです。頼朝は京育ち、父義朝が平清盛と戦った平治の乱に12才で一緒に戦いましたが敗れ伊豆に配流されました。義経は戦時生まれたばかりで鞍馬山の寺に預けられました。従ってお互い一緒に暮らすこともなく、義経は兄のことを知り、頼朝が平家打倒で旗揚げすると、慕っていた兄のもと駆けつけ、平家打倒に貢献しました。平家滅亡後義経は頼朝から鎌倉入りを拒絶されましたが、本当に義経を嫌っていたかどうかわかりません。石坂浩二が頼朝で主演した昭和54年の「草燃える」で、義経に弓引いた藤原泰衡討伐で奥州入りした際、頼朝が義経が自刃した場所に行って泣くシーンがありました。頼朝にとっては、弟憎さではなく、御家人に対する立場上、平家を滅ぼした功績よりも後白河法皇から無断で官位を授かるなどの行動を見過ごす

ことができなかったのかも知れません。

次に登場するのは室町幕府初代将軍足利尊氏、直義兄弟で平成 3 年の「太平記（主演：真田広之」でも取り上げられています。この兄弟、当初はとても仲がよく、一緒に鎌倉幕府打倒を果たし、尊氏が征夷大将軍になった時は二人で二元政治を行ったほどです。それがいつしか政権で対立し、最終的には尊氏が直義を毒殺することになっています。このドラマで弟役を演じた高島政伸は 5 年後の「秀吉（主演：竹中直人)」で同じく弟役の秀長を演じ、仲のよい役を演じています。
これらに対して、次の３例は母親が弟を寵愛しすぎたことが仲違いの原因だったかも知れません。

まずは織田信長・信行兄弟で最近の大河ドラマでは令和 2 年明智光秀が主人公の「麒麟がくる（主演：長谷川博己)」で取り上げられています。このドラマでは反信長一派に持ち上げられた信行が兄信長（配役：染谷将太）を見舞った際に薬として差し出した毒汁を逆に目の前で強引に飲ませて殺害するシーンがありました。
毒汁といえば伊達政宗主人公の「独眼竜政宗」（昭和 62 年、主演：渡辺謙）で政宗の母親（配役：岩下志麻）が政宗に用意した料理のお吸い物の毒に気づき、母親に手をかける代わりに弟・正道を殺害するシーンが描かれました。

もう一つの例は、徳川 3 代将軍家光・忠長兄弟です。平成元年の「春日局」（主演：大原麗子）でも取り上げられました。徳川家康（配役：丹波哲郎）は 2 代将軍秀忠の嫡男・家光の将軍教育をするために春日局に預けたため、生みの親お江与の方（織田信長の妹・お市の方が嫁いだ浅井長政の三女）は大変不満で弟忠長が誕生したとき、自分で育てられる喜びからこの忠長を寵愛して 3 代将軍にさせたかったほどである。このことに危機感を抱いた春日局は隠居中の駿府の家康の所へ行き、家康は急きょ江戸入りして、多くの大名の前で幼少の竹千代（家光の幼名）に菓子を与えるために呼び寄せたところ弟の国千代（忠長の幼名）も一緒に行こうとすると家康は「国千代は竹千代の家臣になる身だから寄ってはならぬ」と家光が 3 代将軍になる者であることを見せつけたシーンが描かれています。
家光が将軍就任後忠長の悪行が評判となり、忠長は移封のうえ切腹させられている。その後家光は父秀忠が唯一の浮気でつくった隠し子の異母弟・保科正之を大変可愛がり、側近として大名にとりたて、そのことで正之は家光の次の将軍幼い家綱を補佐している。

兄弟仲が悪い例を多く取り上げましたが、逆に仲がいい兄弟を取り上げることになった「豊臣兄弟」は大変興味深く、この 2 年あまり興味が持てないドラマなので、楽しみであるが、高齢の私にとって無事見ることができるのであろうかと思うのです。

以上

4.事務局だより

●9月の行事予定
10日（火）営担企画会議（13：00）
11日（水）運営会議（10：30）
17日（火）理事会　（13：00）
24日（火）営担企画会議（13：00）

●10月の行事予定
8日（火）営担企画会議（13：00）
9日（水）運営会議（10：30）
15日（火）理事会　（13：00）
22日（火）営担企画会議（13：00）

●11月の行事予定
12日（火）営担企画会議（13：00）
13日（水）運営会議（10：30）
19日（火）理事会　（13：00）※研修の集い
26日（火）営担企画会議（13：00）

●12月の行事予定
10日（火）営担企画会議（13：00）
11日（水）運営会議（10：30）
17日（火）理事会　（13：00）
24日（火）営担企画会議（13：00）
※17日は理事会終了後に忘年会を予定しています。
※27日（金）13：00から納会を予定しています。

事務局

一粒万倍

▼先月まで行われていたパリオリンピックでは日本は金メダル 20 個、銀メダル 12 個、銅メダル 13 個獲得しました。西洋で普及し日本には無縁と思われていたフェンシングでは金メダル 2 個を含む合計 5 つのメダルを獲得したのには驚きました。フェンシングにはフルール、エペ、サーブルという 3 つの種目があるようですが、見ていても違いがよくわからないのですが、相手につく位置の違いのようです。またこの大会では新しい種目の競技も登場しています。スケートボード、スポーツクライミング、ブレークダンスなど昔では考えられないような競技でした。続いてパラリンピックが行われました。こちらも金メダル 14 個を始め多くのメダルを獲得しました。パラリンピックはオリンピックに比べると盛り上がりも大きく違っているようで、テレビ中継でも大きな差があります。障害者スポーツなのにこんな差別があるなんて、ちょっと疑問に感じるような気がするのですが。

▼今月は自民党の総裁選挙が行われます。9 人の人が立候補しています。今年 7 月に行われた都知事選でも 56 人も立候補したことにも驚きましたが、首相候補者が 9 人も出でいるのは異常な感じがします。たった一人を選ぶのに。

今まで何回もの総裁選が行われていますが、最も強烈な印象として記憶にあるのは、昭和 53 年の総裁選です。争いは、福田首相（当時）と大平正芳氏の選挙でした。福田首相優位と思われた党員選挙（当時は予備選挙として党員のみの選挙が開催）で大平氏が圧勝したのです。大平氏は当時の実力者田中角栄元首相と結びついていてこれが圧勝の要因でした。福田首相は「天の声にも変な声があるものだ」と敗北を認め、本選挙を降りて大平氏が首相になりました。この両派閥は仲が悪く、昭和 55 年 6 月に野党が提出した内閣不信任案の決議に福田派が欠席したために不信任案が可決されてしまいました。内閣不信任案が可決されると内閣総辞職か衆議院解散の 2 つしかなく、大平首相は前回の衆議院選から半年しかたっていないのに衆議院を解散してしまいました。このあと両派は和解し、共同で選挙に臨む中、大平首相が急死し、このことが自民党圧勝につながったことが印象に残っています。

今回の総裁選では週刊誌で立ち読みすると小泉進次郎氏の当選を前提にした記事が目立っています。確かに純一郎元首相の後を継いだ時から話題になっていました。

実現すれば、43 才・史上最年少の首相となるようですが（これまでは、伊藤博文初代首相の 44 才)、結果は？

編集後記：

引き続き皆様のご寄稿をお待ちしております。